

年度内にモデル試行

バンク構想を最優先 民間企業JV募集

神奈川県の第3回「かながわソーラープロジェクト研究会」(会長・村沢義久東大総長室アドバイザー)が21日に開かれ、写真、村沢会長が黒岩祐治知事に第1次報告書を提出した。研究会は研究3分野の1つ、「かながわソーラーバンク構想」を最優先に検討。ソーラーパネルの一括調達と規格化、設置相談・支援を実現方策として示し、「モデル事業」の実施を求めた。これを踏まえ、県は2011年度内にモデル事業の実施・

試行を目指す。

ソーラーパネルを普及する具体策では3つの取り組みを挙げた。このうちソーラーパネルの一括調達は、価格低減(ポリウムディスプレイカウ

ト)を図り、県内への普及を促進する。ソーラーパネルの規格化は、仕様や施工方法の規格「かながわモデル」を定めて一括調達に役立てるとともに、一定の性能を保証する。ソーラーパネル設置にかかる相談・支援では、メーカーや工務店などから中立的な立場で相談を受けるとともに、一連の設置手続きを代行する窓口を県内に複数設置する。



この方向性に基づき、一括発注による価格低下効果を具体的に検証するため、県の主導によりモデル事業を先行実施する。モデル事業のイメージは、エリアと設置予定件数、設備の仕様や設置価格の基準などを定め、競争性のある方式で、パネルメーカー、窓口会社(相談など)、販売代理

店・施工会社などで構成する民間企業JVを公募する。最も有利な条件のJVを選考して事業を委託、受託者はパネル設置のほか、メンテナンス

などのアフターサービスも提供していく。さらに、住宅の屋根貸しによるメガソーラー事業や、県が住宅用太陽光発電の「全量買取かつ買取期間20年」の制度を国に強く働き掛けていくことを踏まえ、その実現を前提に「設置後の売電収入で設置費用を賄うことができる仕組み」として10年以内に初期費用を回収できる事業スキ

ームも検討を進めていく。同研究会は5月18日に発足した。かながわソーラーバンク構想のほか、「公共施設等発電所などの大規模な太陽光発電の設置促進」の3分野を研究し、県に報告・提言することを目的としている。第4回会合以降、残る2分野の検討も進めていく。

茨城県ひたちなか市は、特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)を設置・運営する事業者を募集した結果、設置希望者として社会福祉法人の尚生会(笠間市、山口伸樹理事長)を特定した。設置希望者は、7月に茨城県知事に設置要望を提出する。補助金の内示後、2012年度の着工、13年度の開設を目指す。尚生会は、入所定員70人の



4月10日に行われた埼玉県議会議員選挙で2期目の当選を果たした翌週、ヘルメットや作業着などを装備し、東日本大震災で被災した宮城県東松島市と石巻市に仲間の議員とレンタカーで

高橋 政雄氏

埼玉県議会議員

地域から

向かった。議員の身分を隠し、「お役に立ちたいだけ」との思いで4日間、ボランティアで泥かき作業などに従事しながら、避難所生活を送る

人々と交流を深めた。「短い期間だったが、本音の部分で接し合えたと思っっている。また会って話したい」。政治家も「一市民」との立ち位置を大切にしながら、今回の経験を政治活動に生かす考えだ。高校を中途退学した後、大工、夜間建築科(中央工学校第2学部建築科)入学・卒業、建設会社勤務、海外旅行コンサルタント業、建設会社役員と転身を重ねた。30歳で独立、開業した高橋政雄設計事務所を28年間経営し、県議会議員当選と同時に代表取締役を退任。現在は社員として、一級建築士の立場で建築物の耐震化の必要性などを訴えている。埼玉県建築士事務所協会の顧問も務める。

夢中で行動する姿勢一貫

若いころは「肉体労働を通じて、あり余っている力を発散することで冷静になり、将来を考えるようになった」と振り返り、59歳のいまも「突き進み、夢中で何かを追いかけていたい」と血気盛ん。浦和市(現さいたま市)で生まれ育ち、関係者の間では「まーちゃん」の愛称で親しまれている。議員1期目に、若者の海外留学・研修を支援する「グローバル人材育成事業」を県に提言し、政策として実った。次の目標と展開を模索する中、5月の臨時議会で県土都市整備委員長に就任。「委員長を務めている間に一つでも納得できる提案をしたい」と抱負を語る。